

令和 6 年 7 月 31 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲・大豆作情報（第5号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
7月	1	27.7	25.5	31.2	29.2	25.6	22.7	141	96	12.9	16.7
	2	29.8	26.3	33.4	30.2	27.6	23.3	1	87	26.6	20.8
	3	25.1	27.0	28.0	31.2	23.0	23.8	218	64	6.4	24.9
	4	28.6	27.6	32.8	32.1	25.6	24.3	11	44	22.4	28.8
	5	30.9	28.6	36.0	33.4	26.8	25.0	1	36	54.8	32.0

【7月23～30日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 2.5℃高かった。

降 水 量：期間中は降雨が無かった。

日照時間：平年比 154%と長かった。

2. 管内の生育概況

- ・「夢しずく」では莖数が少ないまま幼穂形成期を迎えている。
- ・中晩生品種では分けつの発生が旺盛になり、有効莖数が確保された圃場が多い。
- ・葉色は濃い傾向である。

3. 情報田生育調査結果（7月30日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	88.9	66.8	56.1
平年値（平年比）	85.3(104)	66.7(100)	57.1(98)
茎数（本/m ² ）	240	524	773
平年値（平年比）	334(72)	457(115)	678(114)
葉齢（L）	13.0	11.3	12.5
平年値（平年差）	12.2(+0.8)	11.6(-0.3)	11.9(+0.6)
葉色（SPAD値）	41.9	42.1	43.5
平年値（平年差）	37.4(+4.5)	42.7(-0.6)	39.9(+3.6)

概況

生育

草丈：「夢しずく」はやや高く、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや低い。

茎数：「夢しずく」は少なく、「さがびより」「ヒヨクモチ」は多い。

葉齢から見た生育の早遅：

「夢しずく」「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。「さがびより」はやや遅れている。

葉色（SPAD値）：「夢しずく」「ヒヨクモチ」高く、「さがびより」は平年並み

主幹の幼穂長：「夢しずく」約60～70mm

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

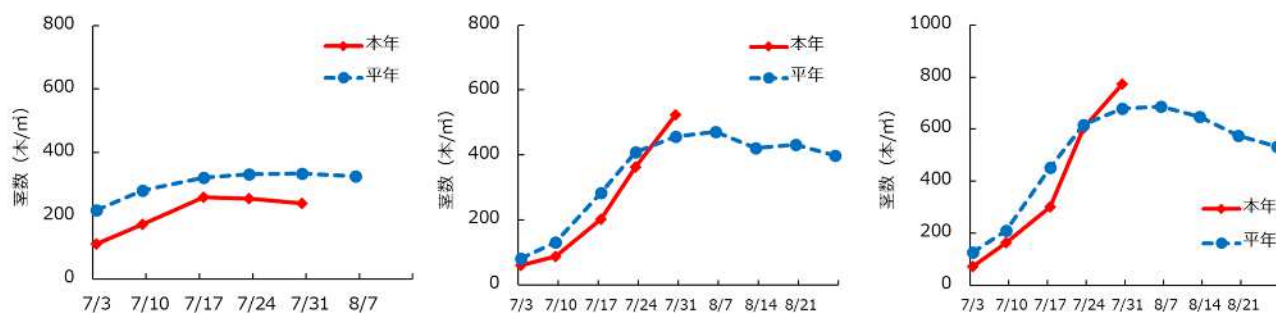


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

(参考) 農業試験研究センター米づくり情報 5号 R6年 7月 30日(抜粋)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月18日	夢しずく	本年	74.3	342	11.6	40.1	[気象] 7月23日～29日まで ◆平均気温…平年より2.6℃高い ◆日照時間…長い(平年比151%) ◆降水量…少ない(平年比0%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」でやや高い、「ヒノヒカリ」 「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で 少なく、「ヒヨクモチ」で多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」で平年並み、 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」でやや進んでいる。 ◆葉色 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で やや濃く、「ヒヨクモチ」で濃い。
		平年	72.5	420	11.5	39.1	
		平年比(差)	102	81	+0.1	+1.0	
	ヒノヒカリ	本年	71.6	496	11.9	41.5	
平年		66.4	546	11.5	40.0		
平年比(差)		108	91	+0.4	+1.5		
6月20日	さがびより	本年	69.8	478	11.5	40.9	
		平年	63.3	535	11.6	39.9	
		平年比(差)	110	89	-0.1	+1.0	
	ヒヨクモチ	本年	64.6	887	12.3	42.8	
平年		58.2	824	12.1	40.7		
平年比(差)		111	108	+0.2	+2.1		
留意点	○ 「夢しずく」は7月28日(平年並み)に幼穂形成期を迎えており、穂肥診断に基づき追肥を適正に施用する。 ○ 中干しが終わった圃場については、今後は間断灌水を行う。 ○ 病気や害虫の発生に注意する。農業技術防除センターの情報を参考にするとともに、“田まわり”を行的確な防除を行う。						

4. 普通期水稻の今後の管理について (8月1日～)

(1) 水管理

① 「夢しずく」

・幼穂形成期を迎えているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水に移行し、湿潤状態を保つ。

② 「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

・「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」ではまもなく、「ヒヨクモチ」では8月中旬頃に幼穂形成期を迎える。

・中干しを実施していない圃場は、幼穂形成期までに軽めの中干しを実施する。中干しは、土に軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とする。

・中干し後は間断灌水に移行する。

・高温・乾燥条件で過度の中干しとなり、ひび割れて白乾している圃場が散見される。このような圃場で急に湛水すると根の活力が低下し、下葉の枯れを助長するため、まず走り水を行った後に間断灌水とする。

(2) 施肥

① 「ヒノヒカリ」「さがびより」穂肥

・8月上旬頃から幼穂形成期(幼穂長1mm程度の時期)を迎える見込み。

・必ず「穂肥診断(草丈・葉色・幼穂長の確認)」を実施し、下表を参考に施用時期が遅れないように穂肥を施用する。

※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が著しく淡く見えるので留意する。

表1. ヒノヒカリの穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈 ※1	葉色		施用時期		穂肥施用量 (kg/10a)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分量	BB602現物量
80cm以下	3.0以下	34以下	22~20日	1~2mm	3	20
	3.0~3.5	34~38	19~18日	3~5mm	3	20
	3.5~3.8	38~39	18~16日	5~15mm	2.5	15
	3.8以上	39以上	施用しない			
80cm以上	3.0以下	34以下	22~20日	1~2mm	2.5	15
	3.0~3.5	34~38	19~18日	3~5mm	2.5	15
	3.5~3.8	38~39	施用しない			
	3.8以上	39以上				

※1 草丈は、幼穂形成期（幼穂長1mm）を起点に、前後1日あたり1cm増減する。
 ※2 施用時期が遅れ、施用時期の幼穂長が5~15mmとなった場合、2~5割減肥する。

表2. さがびよりの穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈	葉色		施用時期 ※		穂肥施用量 (kg/10a)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分量	BB602現物量
75cm以下	3.0以下	34以下	20~18日	5 mm	2.5	15
	3.0~3.5	34~38	18日	10 mm	1.6	10
	3.5~3.8	38~39	16日	15 mm	1.2	7.5
	3.8以上	39以上	施用しない			
75~80cm	3.2以下	36以下	16~18日	10~15 mm	1.6	10
	3.3以上	37以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

※ 早くても幼穂長が 5 mmになっていることを確認して穂肥を施用する。
 ※ 幼穂長が15mm以上になっている圃場では、食味低下が懸念されるため穂肥は施用しない。

(3) 病虫害防除


① トビイロウンカ

- ・トラップ調査の結果等から、6月23~24日頃、7月1~2日頃、7月10~11日頃に飛来があったと考えられる。

② コブノメイガ

- ・トラップ調査の結果等から、6月23~27日頃、7月1~3日頃、7月12~15日頃に飛来があったと考えられる
- ・今後、発蛾最盛期となるため、圃場での発生状況に注意する。

- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・県農業技術防除センターから7/19に情報提供された発生予測図は下図および添付資料参照。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

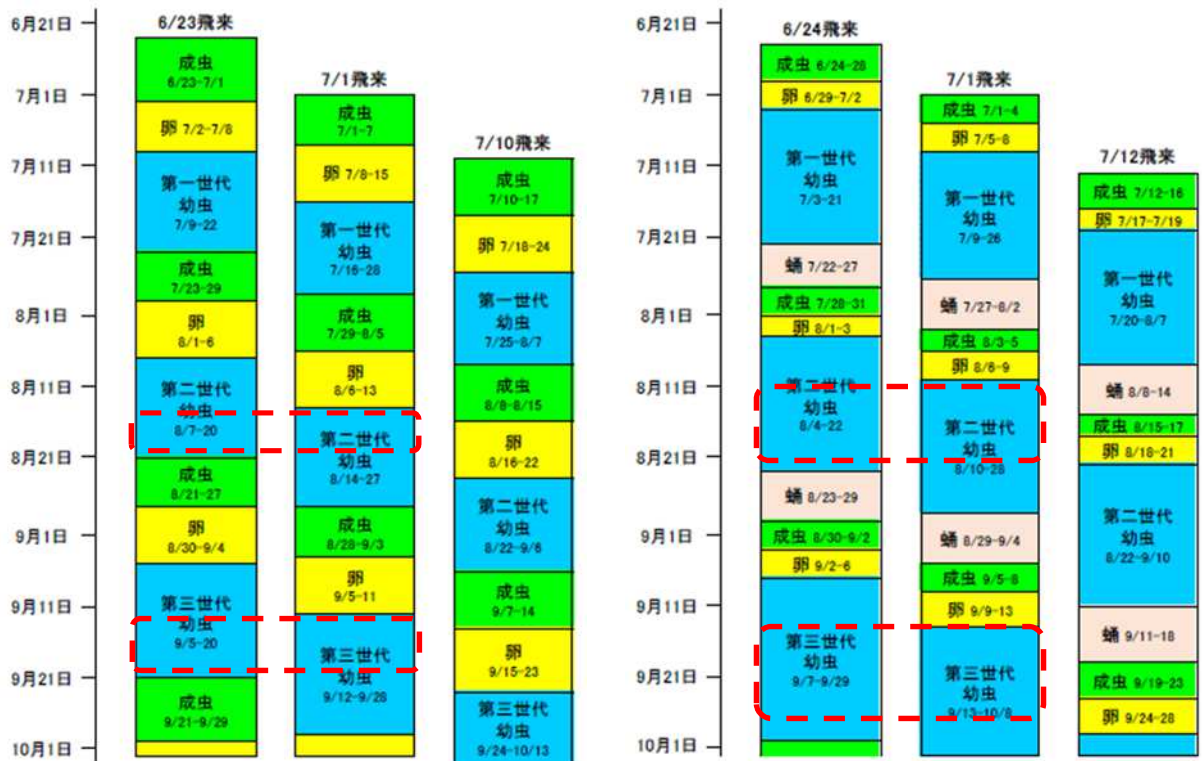


図 各世代の発生予測 (左：トビイロウンカ、右：コブノメイガ)
第2版 2024年7月19日公表

③紋枯れ病

- ・高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生しやすくなるため注意する。
- ・病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を検討する。(液剤・粉剤の場合は、出穂の10～20日間を目安)

(3) 除草作業

- ・除草剤が散布できなかった圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生がみられる。
- ・このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。
- ・除草剤の散布時期については、農薬の使用基準を順守し、収穫前日数に注意する。

5. 大豆の今後の管理について

多くの圃場で7月中下旬に播種作業が行われ、7月末までにほとんどの圃場で播種作業は終了している。

7月上旬に播種された圃場では、本葉3~4葉期となっている。

7月20日頃に播種された圃場では、本葉展開期となっている。

高温乾燥条件が続き土壌の乾燥が進んでいるため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

(1) 今後の天候

- 九州北部地方の1ヶ月予報では、気温はかなり高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並みか多い予報である。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 8月1日 11時発表)

明日 02日(金)	明後日 03日(土)	04日(日)	05日(月)	06日(火)	07日(水)	08日(木)
晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 
0/0/0/0	10	20	20	20	20	20

(2) 雑草防除

① 播種後処理

- 播種直後に土壌処理剤を散布する。なお、難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

② 生育期茎葉処理

- イネ科の雑草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤等。
- 広葉の雑草が多い場合は大豆バサグラン、アタックショット乳剤等。

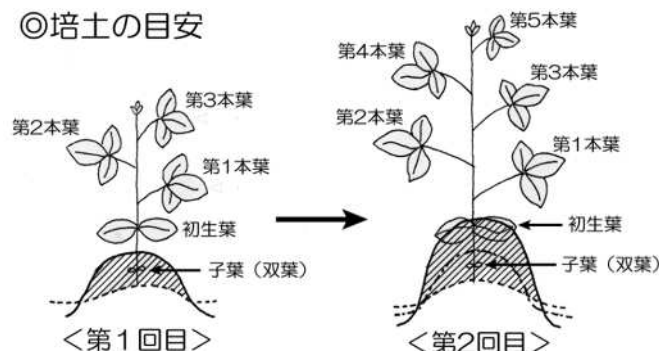
(3) 中耕・培土の実施

- 本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。
- 本葉が5枚開いているのを確認したら、初生葉(子葉の上の葉)が隠れる程度まで2回目の培土を行う。
- 特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。

※ 本年は高温、少雨の影響で圃場が干ばつ傾向となっている。

気温が高い日中に中耕すると土壌水分の蒸散を助長し、乾燥害を生じる恐れがあるため、作業は夕方以降が望ましい。

◎ 培土の目安



(4) 干ばつ対策について

- ・梅雨明け後は高温乾燥条件が続き、土壌の乾燥が進んでいることから、大豆生育への影響が懸念される。

1) 大豆を播種したものの、まだ出芽していない場合【播種後対策】

- ①播種してから5～7日（1週間）程度経過した圃場では、土中の種子を掘り返し、種子の状態を早急に確認する。

ア) 播種時と変わらない種子の状態であれば、うね間灌水を実施する。

うね間灌水は、夕方、日が陰ったあとに圃場に入水し、圃場に水が行き渡ったら、すぐに落水し、少なくとも翌朝には完全に落水させる。

日中の灌水は、高温・多湿により種子が腐敗し易い。

イ) 一度、土中で出芽しそのまま乾燥していれば、出芽しない可能性が高いことから、再播種を行う必要がある。

- ・平うねでの灌水は排水が遅延し種子の腐敗を招くことが多いので、うね溝を設けるなどの事前作業を実施する。

- ・うね間かん水後は雑草の発生が多くなることから、早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。

2) 大豆がまだ播種されていない場合【播種前対策】

- ・播種後に晴天が続き高温乾燥が予測される場合、播種深度は4 cm～5 cmの深めで鎮圧を行う。

①用水の手当てが可能な場合

ア) 圃場は乾燥した状態となるため、圃場へ湛水・落水した後に、耕起・播種する。

イ) 圃場への湛水・落水をせずに播種した場合は、発芽苗立ちを向上させるために、うね間灌水を行う。

②用水の手当てがつかない場合

- ・降雨まで播種作業を待ち播種するが、播種量を増やし、生育量の確保に努める。

- ・播種時に大豆種子が湿った土と接するよう、耕起深や播種深を調節する。

